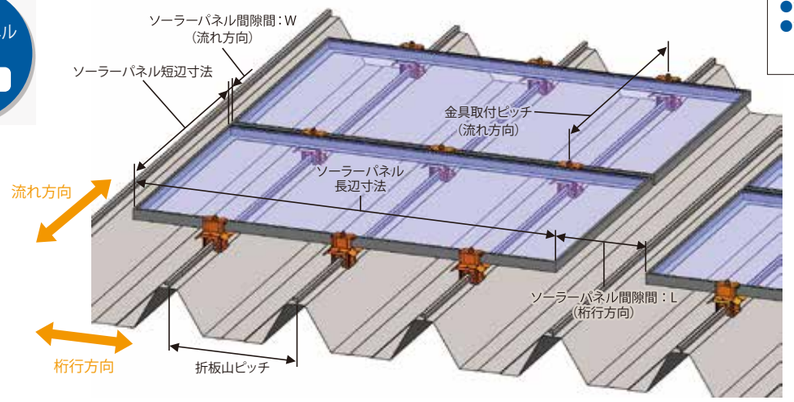
各部取合い寸法

直付工法（ハゼ式アルミタイプ及び重ね式直付タイプを除く）

ソーラーパネル配置寸法
横置の場合



イラスト例
●ソーラーパネル：NFタイプ
●ソーラー金具：ハゼ式A
高強度タイプ

※ソーラーパネルメーカー様にて隙間の指定がある場合は、その指定に準拠してください。

ソーラーパネル間隙間（桁行方向）：L

左右対称配置の場合　桁行方向（最小寸法）：L＝{折板山ピッチ × (ソーラーパネル長辺寸法 ÷ 折板山ピッチ)} − ソーラーパネル長辺寸法
↓
小数点以下切り上げて整数にする

偏心配置の場合　隙間は、屋根・建物・ソーラーパネルの強度・耐久性を考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置（配置）仕様（条件）に準拠した上で、お客様にて決定してください。

※最小寸法が 5㎜未満の場合は、折板山ピッチを加算してください。また、ハゼ式Ⅲ型への取付けの場合は、山ピッチではなく働き幅で隙間寸法を決定してください。

ソーラー金具取付ピッチ（流れ方向）

流れ方向＝ソーラーパネル短辺寸法 ＋ W　（ソーラーパネル間隙間（流れ方向））

設置条件について

①ソーラーパネル固定方法：ソーラーパネルフレーム押さえ固定　4又は6又は8箇所留以上（ソーラーパネル1台あたり）

②屋根なり設置（屋根置き形）：アレイ面（屋根面）＝屋根勾配＝設置（傾斜）角度

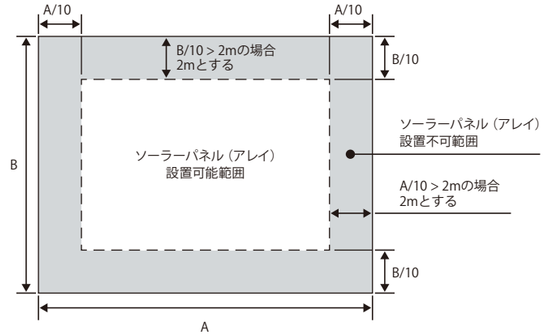
③ソーラーパネル1長辺あたり4点固定以上は、ソーラーパネル長辺寸法と桁行方向の金具取付ピッチを考慮し、ソーラーパネルメーカー様の設置（配置）基準(条件・仕様）に準拠した上で、ソーラーパネル間隙間やソーラーパネルへの金具の固定位置を考慮し、お客様にて調整・決定してください。

④多雪区域ではアレイ（ソーラーパネル）から軒先・棟までの距離および分割されたアレイ間の距離、屋根勾配を含む設置（傾斜）角度によって、屋根からの落雪・雪庇・巻垂れ・氷柱・吹き溜まりなどの影響によりアレイや金具・架台に滑雪荷重が加わり、アレイや金具・架台が滑落・引きずられる場合があります。
また、屋根形状・風向き・日射方向による積雪荷重の不均等や、積雪後の降雨や寒暖差により融雪・結氷を繰り返す事や、建物の立地地域・立地条件・屋根形状・屋根面の方角などにより、雪の平均単位荷重（P [N/㎡・cm]）が増加し、アレイや金具・架台に加わる積雪荷重が増加する場合があります。
そのため、必ずアレイや金具・架台への荷重を減らすソーラーパネル設置位置（レイアウト）や固定位置・隙間の検討および雪止金具やアングルを取付けるなどの滑落・滑雪・雪止対策および除雪などを行ってください。（⇒ P69「雪止金具のご案内」を参照してください。）

※その他の設置条件については各屋根ごとの設置条件を参照してください。

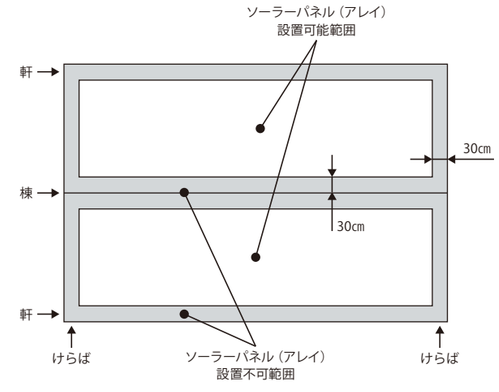
屋根設置について（ソーラーパネル設置可能範囲）

◇屋根勾配（屋根面）0° 以上 10° 未満
設置対象屋根（建物）：
陸屋根・片流れ・切妻屋根の閉鎖型建築物

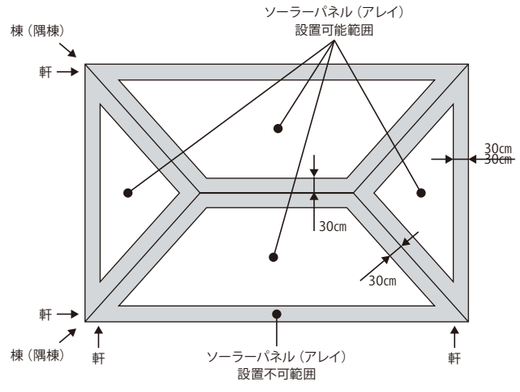


❶アレイ（ソーラーパネルおよび金具・架台）を上記の設置対象屋根（建物）の屋根周辺部（外周のこと。屋根端部からそれぞれ辺長の10%以内の範囲とする。ただし、辺長の10%が2mを超える場合は2mとする。）へ陸屋根設置で設置する場合は、JIS C8955:2017の適用外です。

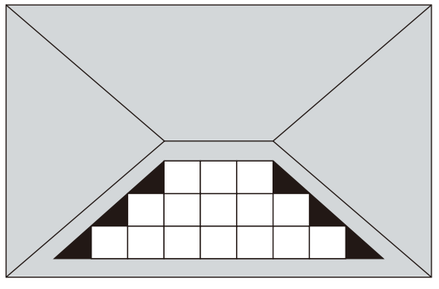
■切妻屋根



■寄棟屋根



❶上記の設置（傾斜）角度内で、アレイ（ソーラーパネルおよび金具･架台）を、上記の設置対象屋根（建物）の屋根周辺部（軒・けばらおよび棟から30cm以内の範囲）へ屋根置き形（勾配屋根設置）で設置する場合は、JIS C 8955:2017の適応範囲外です。

❷以下のような寄棟屋根へのソーラーパネルの設置の場合は、この設置条件の対象外です。別途、お問い合わせください。
・屋根表面とソーラーパネル下面との最大距離dがd＞50㎜となる寄棟屋根の端部ソーラーパネルを設置する場合

■：端部モジュール
寄棟屋根の端部ソーラーパネル